

科目名	社会福祉原論特講
科目責任者	川上 昌子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	生活とは、生きるとはについて深く理解することが基本になる。人々が直面するかもしれない貧困問題、生活問題を捉える上での基本となる視点を履修者がさらに広く、深く作り上げていくことができるよう目指したい。そのことを念頭に、いくつかの原論書としてまとまっている著書を取りあげ、その理論について検討することにする。
到達目標	1. 各著書を正確に理解する。 2. それに基づきながら、現代の社会福祉のあり方について、自分としての一定の評価ができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 次のような理論を取り上げる予定 1. 孝橋理論と岡村理論 2. 一番ヶ瀬理論 3. 江口理論 4. 三浦理論 5. 川上理論

学修方法	講義およびディスカッション
評価方法	参加時の積極性 30%. 発言の内容 40%. レポートの成績 30%
課題に対するフィードバック	講義中に個別に回答していく。
指定図書	それぞれの著者の原著を入手されたい。
参考書	関連論文、および各著者を評価した論文を検索し、読んでほしい。
事前・事後学修	理解が難しい場合、疑問点を授業での質問として出してほしい。 事前・事後学修については講義の進行に応じて、都度指示する。
オフィスアワー	随時、相談する。

科目名	社会福祉原論特講演習
科目責任者	川上 昌子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	各自の関心のある研究分野について文献をレビューし、研究の動向、研究方法等について、理解を深める。研究テーマ、方法について探り、研究計画につなげる。 秋開講となっているが、できるだけ早く春学期から取り組むことが望ましい。 社会福祉が誰のために、何のために必要であるのかは、時代により、見方により、必ずしも自明ではなく、また、社会の在り方や実践の開発により変化してきている。社会福祉のいずれの分野にも共通する人間と社会についての社会福祉としての「援助」に共通する独自の考え方がある。その共通する人間観、社会観、そして援助方法は、これまでの歴史の過程を通して先人達によって蓄積されてきたものである。それらの知識や理論に学びつつ、現代の生活問題、貧困問題についての理解を具体的な実践に際して必要であるところの、社会の中の人々の在り方を規定する諸要因について分析するツールとして使えるよう、自分のものとして身につけて欲しいと考える。マクロの観点とミクロの観点から問題を理解し、政策の在り方や援助方法について考えることが出来るように関係文献の分析を通してまなぶこととする。
到達目標	1. 関心課題を絞りながら、研究計画を立てる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 各自の研究テーマについてさしあたり考えていることの報告を聞き、それについて検討する。 第 2 回：研究方法について、講義する。 第 3 回から 8 回：研究テーマ、方法の確定。各自のテーマ、方法について検討する 第 9 回から 15 回：各自の論文の取り組みの進行に沿いながら、研究計画を確実なものとしていく。

学修方法	ディスカッション
評価方法	取り組みの姿勢で評価する。
課題に対するフィードバック	講義中に個別に回答していく。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	理解が難しい場合、疑問点を授業での質問として出してほしい。 事前・事後学修については講義の進行に応じて、都度指示する。
オフィスアワー	随時、相談する。

科目名	ソーシャルワーク特講
科目責任者	大友 信勝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	貧困・格差が広がり、貧困の連鎖・重層化が進んでいる。社会福祉専門職の身分・待遇がゆれている。時代の転換期を迎え「社会福祉とは何か」、「ソーシャルワークのアイデンティティは何か」が揺らいでいる。先行研究を批判的に検討し、新たな研究動向に注目しながら、これからのあり方を問題提起できるように授業を進める。
到達目標	社会福祉・ソーシャルワーク領域の先行研究を批判的に検討し、その到達点を評価し、そのうえで、何が問題点と課題か。乗り越えるべき点はどこにあるのかを明らかにしていく。また、各自の研究テーマ、研究方法を設定できるようにするのが目標である。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：院生の研究テーマ、研究関心にそって、博士論文作成に資する研究・調査方法をうちだしていく。 第 3 回：論文の独自性、開拓性を重視し、今、何故その研究テーマなのかが浮き上がるように検討する。 第 4 回：社会福祉学における創造的な研究とは何か。その視点と研究方法を追求する。 第 5 回：博士論文テーマ、研究領域、研究方法のアウトラインを決める。 第 6 回：博士論文テーマに関わる先行研究のリストアップ、その理由、根拠を確認。 第 7 回：博士論文と学会動向にみる研究の特徴や傾向、問題点と課題を考察。 第 8 回：代表的な先行研究を数点に絞り、その分析と評価を行う。 第 9 回：論文の研究・調査方法と仮説—研究の枠組み、方法、どのように研究するか。 第 10 回：既存の調査報告書、代表的論文の特徴と評価—研究課題にいかすべき点は何か。 第 11 回：社会福祉学と貧困研究—貧困の実態と政策動向 第 12 回：貧困研究の文献資料と研究方法—代表的な著作に何を選ぶか。その理由と根拠は。 第 13 回：社会福祉実践の現場におけるレポート、実践記録、報告書の分析と評価。 第 14 回：ソーシャルワークと専門職アイデンティティ 第 15 回：博士論文の構成やデータ、活用すべき資料の整理と検討。 ソーシャルワーク特講は院生の研究テーマ、研究関心にそって、柔軟に対応する。博士論文作成につながる授業を展開する。

学修方法	講義を中心に行うが、適宜「討議」を組み合わせで行う。
評価方法	レポートや博士論文検討会の発表 50%、論文の進行 50%
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談やメール等でフィードバックを行う。
指定図書	『公的扶助の展開—公的扶助研究運動と生活保護行政の歩み』旬報社
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を調べてくる。(40分) 事後学修：講義内容について、振り返り整理しておく。(40分)
オフィスアワー	研究室(5703)にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業で提示する。

科目名	ソーシャルワーク特講演習
科目責任者	大友 信勝
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	博士後期課程のソーシャルワーク特講演習は、博士論文作成に向け、院生と研究協議しながら進める。特に博士論文のテーマや枠組み、研究方法の独自性、開拓性が十分であるかどうか。学術論文に取り組む社会科学的な視点や方法について議論しながら進める。
到達目標	博士論文についてイメージがわくように、十分な研究協議を重ね、独自性、創造性を工夫し、論文作成の準備に入る。特に、先行研究の業績調査、分析、評価を重視し、到達点と課題を明確に描き、開拓性を明確に打ち出し、自立した研究者への出発が目標である。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回： ソーシャルワークをなぜ、「貧困ソーシャルワーク」から切り込むのか 第 3 回： ソーシャルワークは、社会的に最も困難な立場にある人々の人権・尊厳、生活と生命に関わる研究である。ソーシャルワークの歴史から、エンパワーメント等を学ぶ 第 4 回： 博士論文の研究テーマ、研究（調査）方法、研究の枠組みを設定する。 第 5 回： 博士論文の独自性、開拓性がどの点にあるのか。テーマや主要項目、研究方法とつき合わせて検討する 第 6 回： 各自が先行研究の業績リストを作成し、レビューの分類・整理を行い、準備を整える。 第 7 回： 先行研究の分析において、自らの言葉で評価、批判、課題提起を行う。 第 8 回： 研究・調査方法を再度検討し、最終的に決定する。その上で、倫理審査を受け、調査やデータの作成に入る 第 9 回： 論文に必要なデータ（実証）の作成、整理、確認を行う。 第 10 回： 中間段階で、院生や、学内外の研究者から学会発表や何らかの研究発表の機会を作り、批判やコメントをいただく。その機会を活用し、問題意識や焦点の絞込みを行う。 第 11 回： データ処理、解析の方法、比較研究、量的・質的研究方法を自分の論文と付き合わせる 第 12 回： 草稿をまとめる作業に入る。論旨、枠組み、データのアウトラインを書きながら、不十分なところを早く手当てできるように準備する 第 13 回： 研究テーマと目的が、論旨や枠組みと整合しているか。同じようなことが出てくる重複はないか。逆に、説得力を持たせる上で弱いところがないかを確認する 第 14 回： 草稿の論旨と理論（仮説）、実証が整合しているか。最終的にチェックする 第 15 回： 特講演習で草稿を研究発表する。批判や助言を謙虚に受け止め、提出論文にいかす 以上は、院生の研究テーマ、研究方法によって、差し替えや補足等が十分にありうる。院生と協議しながら、柔軟に個性を生かして対応したい

学修方法	各自の研究発表や討議を中心とし、適宜、先行研究等のミニ講義を行う
評価方法	博士論文作成に向けた準備、取り組みを評価する。(100%)
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談、またはメール等でフィードバックする
指定図書	特に、指定しません
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を討議できるようにしておくこと。(40 分) 事後学修：授業内容について、振り返り整理しておくこと。(40 分)
オフィスアワー	研究室（5703）にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業時に提示します

科目名	こども・家庭福祉特講
科目責任者	石川 瞭子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	現代のわが国のこども・家庭福祉研究領域はかぎりなくボーダーレスの時代である。その意味は、あらゆる関係性が複雑に流動的に関与しており、問題の連続性は多重構造化している。そのような背景から、こども・家庭福祉の問題解決は困難が予想される。必要とされる理論は生態学的システム論であり、支援方法はシステム論に依拠した援助技術である。そして研究方法は量的調査方法のみならず、エスノグラフィー等の質的研究も無視できなくなっている。真実にせまり社会を変えるには、研究に相応の覚悟が必要とされる所以である。 本講は院生の志向する研究テーマにそって思考をふかめ、多様な視点から検討をかさね、独自性のある博士論文を構築できるように指導を行っていききたい。そのためまだ手つかずの状態、あるいはまだ研究の積み上げが充分でない領域を発見し、先行研究を多方面から調査し、データを収集し、他者と議論をかさね、博士研究として社会的意義があるテーマを発見したい。 こども・家庭福祉領域はカバーしなくてはならない学問領域が広い。社会福祉学・精神保健学・教育学・心理学・社会学・保育学など学際的な領域であるため、研究は多角的・複眼的なとりくみが必要になる。まずは院生の関心ある領域を互いに議論しあうことから開始し、視野を広げ、研究テーマのしぼりこみを行いたい。
到達目標	独自性と先駆性のある研究領域を発見するために、まず現実から検討を開始し生活問題を発見し、その解決のために何が必要か議論をする。解決を志向するために多様な理論と方法論への接近がかかせないことを理解する。さらに汎用性・臨床性を高めるために現場での実践が欠かせない。現実と関連させながら議論を深め、院生独自の研究領域を極めることが到達目標となる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 多様な関心ごとに対して院生同志のディスカッションから今後を展望したい。各人が異なる関心を抱いて博士課程に入学し、また研究の動機も異なることから互いに刺激しあい成長するため機会を提供する。研究テーマは多様であるが、他領域を含むため逆に相通じるものもある。それらを分かちあい、研究を深化させ、文献や海外の資料などからひとりひとりの展望をひろげたい。こども・家庭福祉領域にかぎらず人間社会の多様性と混迷をめぐって、改善策や解決方法の提案を教員とともに検討し、博士論文として提案を行い、もって社会貢献をしたい。進行は以下であるが各人のプロセスを大事にしたい。 ① 究方法の展望 どのような内容でどのような提案を行うのか研究のアウトラインの検討 ② 論の展望 中心に据える理論は何か、中心から派生する事象を読み解く理論や概念は何か ③ 援方法の検討 現状を改善するための方法論 支援方法 具体的提案に結びつく方法論 ④ 場での実践 実践方法の検討 具体的成果物の試案(チェックシート等の試行) ⑤ 支援方法の効果測定等 支援方法の妥当性や汎用性・臨床性の検証 ⑥ 支援方法の修正 現場からのフィードバックを取り入れてより効果的な支援方法の検討 ⑦ 提案 具体的な方法の提示 図式化・可視化 ⑧ 禁忌の検討 ⑨ 博士論文としての体裁等 要旨のすり合わせ・整合性の検討等 特講は博士課程に在学する院生の関心に沿って進行されるため、実際は異なった内容になります。院生が独立した研究者になり社会に貢献する意義を追求して欲しい。

学修方法	土曜日は院生室ないし図書室にきて研究することを志し、教員と進行を打ち合わせてほしい。	
評価方法	評価方法は年2回の研究計画検討会の発表40%、博士論文の進行に対する主体性60% 月一回開催される他職種との事例検討会に積極的に参加されたい	
課題に対するフィードバック	研究室での討議や博士論文進行検討会の振り返りで、その都度フィードバックを行うが、本学の社会福祉学会誌や紀要への論文投稿時や、社会福祉学会等の発表に関わる作業時に適宜フィードバックを行う。	
指定図書	各自研究する領域が異なるため指定図書はありません。	
参考書	上に同じ。各自専門領域が異なるため指定する参考書はありません。	
事前・事後学修	関係する事象や資料集め、および関係する学会の動きや研究の動きに敏感になって、常に関心をよせて独自性のある研究領域の開発に取り組むことを事前・事後学習とします	
オフィスアワー	ryoko-i@seirei.ac.jp 可能な限り連絡を密にして研究体制を維持してください。研究室は5号館7階の5709研究室です。前もって他の研究指導予定がないかメールで確認してください。合同で議論することもあります。相談事は歓迎します。所属は社会福祉学研究科。	

科目名	こども・家庭福祉特講演習
科目責任者	石川 瞭子
単位数他	2単位 選択 秋セメスター
科目の位置付	(4)研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5)研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	博士後期課程の児童・家庭福祉特講演習は、独自性や開拓性や先駆性・臨床性が求められる。研究論文の制作にむけて留意すべき点を中心に、院生とともに議論を重ねていく。そのため社会福祉学・精神保健学・教育学・社会学・心理学・保育学等の学際的な先行研究のレビューを充実させ、独自の切り口から真実を追求し、社会問題の解消ないし改善を目指した提案を行っていく。その際、わが国でなぜ生活や家族の在り方等の研究が重要視されてこなかったのかの歴史的背景をふりかえりながら、文献研究をしっかりと行い、また事例研究を行うかたわら現場の現実と研究のギャップを吟味し、今後を展望する。量的調査ないし質的調査を通じてえた知見を、院生の独自な視点から研究を展開し、論文としてまとめる作業をおこなう。
到達目標	教員と院生と議論を重ね、可能な限り臨床現場にはいりこみ、提案内容の独自性・先駆性・開拓性・臨床性を確認し、研究のアウトラインを次第に具体的なデザインに発展させる。十分な先行研究の吟味、十分な調査の準備、十分な研究の柱となる理論と資料等の準備をして、論文を書き始める用意をする。自立した研究者としての能力開発が到達目標となる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 博士論文に求められる点は、第一に独自性があり未開拓な領域の研究であるかどうかである。そのため十分な先行研究のレビューが欠かせない。未開拓の独自性のある領域と確認がとれたら、具体的な調査に入り真実を確かめ、調査から浮かび上がる知見をもとに解決策や改善方法を提案する。その際、汎用性や臨床応用性が問われるので、臨床現場で実践してみる必要が出てくる。提案物は修正がくわえられ博士論文の一部を構成する。進行は以下のプロセスを再確認されたい。なお研究テーマにより進行は異なる点に留意されたい。 (1)何を研究テーマとし、どの内容を研究の対象とし、どの程度深化させるか、どの域までを研究のテーマとして押さえるか、を検討する。研究のアウトラインを検討する (2)研究対象は独自性があり先駆的であるかの調査を行う。先行研究のレビュー等、文献研究はしっかりと行う。研究のより具体的デザインを設計する。章を立てる。 (3)研究方法を決める 量的研究か質的研究か。調査の目的は何かを検討する。 既に決めている者も再度研究方法の妥当性を検討する (4)データー等の調査が必要な研究の場合、本学の倫理委員会に審査を依頼する。 (5)データー収集後のデーター処理 あるいはエスノグラフィ等の方法から得た情報の処理 データーの利用上の倫理や内容や範囲の妥当性等の検討 (6)調査研究を考察し、他の院生と指導教員と議論し、視点を拡大する 多様な視点、多様な価値観や多様な意義をその研究から引き出す社会性を引き出す (7)提案する内容を裏付け、形つける理論・概念を研究し十分に理解し、関連する方法論等を詳しく調べ、提案内容に即して応用し、理論化ないし概念化・図表化を図る。 (9) 提案する内容の禁忌を具体的に検討する。 (10)研究の全体の理論の整合性を高める 要旨と論文の整合性を確認する。 上記は一例で院生の研究テーマによっては必要となる項目は増える可能性がある。 以上を教員と相談しながら、煮詰めていく。

学修方法	可能な限り図書館や院生研究室を利用して、土曜日は他の院生と議論する。
評価方法	独立した研究者として自覚をもち研究しているかで評価する。100%。 また月一回開催される他職種との事例検討会に積極的に参加しリーダーシップを発揮する。
課題に対するフィードバック	研究計画検討会で各教員から寄せられた意見を院生とともにディスカッションする。 また、院生間および教員とのディスカッションでそのつどフィードバックを行う。
指定図書	特になし。院生の研究領域で検討する。
参考書	特になし。研究内容で検討する
事前・事後学修	周辺の理論や概念に馴染み、具体的な方法論にも通じておく。そのためには臨床現場を大切にする意識が重要である。それらをもって事前・事後学習とする。
オフィスアワー	ryoko-i@seirei.ac.jp が連絡先。研究室は5号館7階の5709。事前に予定を確認の上で来室してください。相談は歓迎します。所属は社会福祉学研究科

科目名	高齢者・障害者福祉特講
科目責任者	染谷 淑子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本特講は、高齢者福祉の課題と社会的役割について、高齢者（障害高齢者含む）の自立を支える社会的支援、および家族の役割と機能について、基本的な知識を修得し、理解を深める。さらに、日本の高齢者福祉の変遷を学び、今後の対応について考察する。また、世界的に高齢化が進む現状の理解と、諸外国の対応を考究する。
到達目標	1. 日本社会の人口動態の変化に伴う高齢者福祉ニーズを理解する。 2. 超高齢社会における高齢者の扶養について理解する。 3. 老親扶養の家族と公私の役割機能に関する問題点と課題について理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：高齢者福祉の起源と変遷 第3回：高齢者福祉の社会的役割 第4回：現代日本社会における、高齢者（障害高齢者含む）福祉のニーズ 第5回：現代日本社会における、高齢者福祉の機能 第6回：介護保険の発足とその仕組み 第7回：介護保険の役割と機能 第8回：介護保険運用の実態と現在の課題 第9回：日本の高齢者福祉問題の諸相 第10回：超高齢社会日本の今後の課題 第11回：欧米先進諸国の高齢者福 第12回：欧米福祉国家の高齢者福祉の類型 第13回：アジア諸国の高齢者福祉と課題 第14回：介護従事者と外国人労働の課題 第15回：まとめ

学修方法	事前に教材を読み、要約、課題等とレポートし、授業時に論点を議論しつつ理解を深める。
評価方法	授業の対する積極的な態度としての平常点を 50%、学期末レポートを 50%とする。
課題に対するフィードバック	前回の授業の要点について、毎回の授業の初めに理解の程度を確認し、次のテーマに進む。
指定図書	特になし。
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	毎回の授業に備え、各自が準備をし、授業後にまとめノートを作成する。
オフィスアワー	時間については、初回授業時に提示する。研究室 5702

科目名	高齢者・障害者福祉特講演習
科目責任者	染谷 俣子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	当演習では、前期に修得した基本的な知見を基に、多くの文献・資料を読みこなし、さらなる考察と理解を深めることを目指す。履修生各自の研究課題に即したアプローチにより、毎週の発表、質疑応答、議論を通し、課題の理解と考察をはかる。それにより、各自の研究課題の追及、および課題の整理を図る。
到達目標	1. 各自の研究課題を明確化する。 2. それぞれの課題について、文献検索、資料収集の方法を習得する。 3. 収集した知見を整理し、課題の考察を行う。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション、今学期の達成目標を定める。 第 2 回：履修生の問題関心に即し、研究テーマを設定する。 第 3 回：各自の研究テーマを中心に、文献資料の検索を行う。 第 4～13 回：検索した文献・資料に基づき、毎週文献を精読し、輪番で発表を行い、質疑応答を重ねる。 第 14～15 回：今期セメスターに設定した研究課題をまとめ、各自が今学期の研究成果の発表を行う。その発表をまとめ、学期末レポートとして提出する。

学修方法	図書館を利用し、文献資料を検索し、資料を収集する。
評価方法	毎週の授業における平常点を 50%、学期末のレポートを 50%とする。
課題に対するフィードバック	前回の授業の要点について、毎回の授業の初めに理解の程度を確認し、次のテーマに進む。
指定図書	特になし。
参考書	随時紹介する。
事前・事後学修	毎回の授業に備え各自が準備をし、授業後にまとめノートを作成する。
オフィスアワー	時間については、授業初回時に提示する。研究室 5702

科目名	社会福祉学特別研究		
研究指導教員	大友 信勝、川上 昌子、石川 瞭子、染谷 俣子 (研究指導教員は領域および課題により決まる)		
研究指導教員	藤田 美枝子、太田 雅子		
単位数他	6 単位 (180 時間) 選択 通年		
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。		
科目概要	これまでの学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選定し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。研究指導は、研究指導教員を中心に、社会福祉学分野の複数教員が協力しながら行う。		
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う。 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。		
授業計画	<授業内容・テーマ等>		<担当教員名>
	< 授 業 内 容 ・ テ ー マ 等 > 1 年次春semester：保健科学研究方法（質的研究法、量的研究法）、保健科学英語特講、前期課程開講の社会調査特論などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。		<評価方法>討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%）
	1 年次秋semester：研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。		発表態度（30%） 発表内容及び研究計画の完成度（70%）
	2 次春semester：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。		研究計画の倫理的配慮の精度（40%） 研究計画書の完成度（60%）
	2 次秋semester：適宜、指導を受けながら、データ収集および、副論文の作成、学会発表を行う。		データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%）
	3 年次春semester：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する		データ分析の論理性・技法の適切性（100%）
	3 年次秋semester：第3者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。		論文の完成度（70%）第3者の評価による修正の適切性（30%）

学修方法	発表、ディスカッション、個別指導、講義
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談等でフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考書	授業中に随時連絡する
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した授業内容に沿った該当箇所の学修（60 分） 事後学修：授業内容について振り返り整理しておく（60 分）
オフィスアワー	初回授業時に提示